

教授 大崎 正裕

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
<p>◎教育方法の実践例 集団表現・アールラジオ 2016</p>	<p>2016. 10. 10・11・12 (放送本番)</p>	<p>三日間限定FM放送 全体統括者は大崎正裕が担当(村田仁氏、横山豊欄氏、浅井雅弘氏が共同指導) 番組表製作(A3サイズ) 仮設スタジオはA&Dセンター中2F。学生(卒業生)やゲストがチームに分かれて協働することは個人で活動する以上に大きなエネルギーとクオリティーの高さを必要とする。チームやグループに分かれてアクティブラーニング形式で学生達に指導する事で一人一人の能力を開花させる。学生達はマルチメディア機器を利用して実践的に学ぶ。</p>
<p>2校による大学院レベルの展覧会 〈名古屋芸術大学と東京造形大学の交流展〉</p>	<p>2016. 10. 7~12</p>	<p>仮設本学西キャンパスA&Dセンター内ギャラリーBEで名古屋芸術大学院生と東京造形大学院生による「4対4」の交流展。アールラジオ番組の一つとして、名古屋芸術大学同時代表現研究生生代表と東京造形大学院生代表のクロストーク番組「名芸×東造」を生放送で発信した。</p>
<p>アートラボあいち本学独自企画 「グループワーク and コラボレーション」</p>	<p>2016. 6. 12~7. 3</p>	<p>中部地域3芸大関連企画事業の一つである本学独自企画に携わり、グループワークとコラボレーションワークを大崎正裕が立案する。村田仁氏を募り、一緒に共同企画を進める。大津橋会場3Fでは名古屋芸術大学卒業生(西松秀祐氏 山田なつ実氏 大島歩氏)3名によるグループワーク展。 長者町会場4-5Fでは2人ユニット「ブルーマヨネーズ(村田仁&小松亮一)」によるコラボレーション展を催した。 愛知芸術文化センター・中村史子氏が一筆のこの展覧会についてコメントがあった。アールラジオ活動スピンオフ企画として企画者や参加作家達の話を全国に発信した。 スカイブや映像機器などを駆使した作品展示(インスタレーション)が行われた。</p>
<p>AMR(伏見長者町トランジットビル)を会場に2期に分けて洋画2コース3年生展を開いた。</p>	<p>2017. 2. 21~26 (1期) 2017. 2. 28~3. 5 (2期)</p>	<p>大崎正裕が計画・立案した後、ディレクター(プランナー)の立場で横山豊蘭氏が進行した共同企画授業。また、展覧会会期中にアールラジオスピンオフ企画ラジオ放送を横山豊蘭氏と浅井雅弘氏が実施した。</p>

<p>Under 29 Artists Exhibition 2016展</p> <p>アートビジネス講座を実施</p>	<p>2016. 8. 16～27</p>	<p>ギャラリーMoMo Ryogoku（東京・両国）で催した。大崎正裕にも企画初頭から話があり、推薦者の一人として加わった。この展覧会は名古屋芸術大学と東京藝術大学（東北芸術工科大学 多摩美術大学）と東京造形芸術大学と武蔵野芸術大学の関係者に企画者から話があって実現した。そうそうたる美大・芸大ばかりである。29才以下の才能ある若い作家達を発掘するために、上記大学の関係者が総数11名の卒業生や院生を推薦している。企画者がこの展覧会をまとめるため、A5サイズで26ページのカatalogを作成した。</p> <p>社会の第一線で活躍しているアーティスト以外の美術関係者を招いて、側面から支援してもらうための講座を積極的に開いている。作家を産むためには、単なる技術の習得だけではなく、作家として厳しい社会で生き抜くために気力と知識（知恵）が必要であると考えている。学生や卒業生達にとってより実践・実学的な教育を心がけて作家を育成する。</p>
<p>◎作成した教科書・教材 A&Dセンター発行誌Ble</p> <p>文化をつなぐ地域総合雑誌 C&D執筆</p> <p>文化をつなぐ地域総合雑誌 C&D記事</p>		<p>A&Dセンター発行誌Ble Vol. 46特集「行くべし！観るべし。」原稿執筆・掲載</p> <p>集団表現ア―ッ！ラジオについて執筆・掲載。タイトル「大学発放送としてのア―ッ！ラジオ」（No. 167 2016年-夏 Vol. 47 A4サイズ 掲載記事2ページ）</p> <p>16p, 17p 集団表現。グループワーク&コラボレーションワーク展について記事掲載。タイトル「グループワーク and コラボレーション」（No. 167 2016年-秋 Vol. 47 A4サイズ 掲載記事2ページ）</p> <p>中部地域3芸術大学（愛知県立芸術大学 名古屋芸術大学 名古屋造形大学）連携プロジェクト事業で名古屋芸術大学独自企画の企画者として関わり、村田仁氏も共同企画者として紹介される。会場は天津橋会場と長者町会場の2ヶ所。</p>

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
◎展覧会				
萌月のアート展	ギャラリー企画	2017. 1. 9～20	ウェストベスコズカギャラリー（名古屋）	出品作品（写真作品）1点
ブライトン大学と名古屋芸術大学との20周年交流記念事業展 Dialogue between Brighton and Nagoya	本学&ブライトン大学両校企画	2016. 12. 9～14	名古屋芸術大学 Art & Design Center内 ギャラリーBE	出品作品2点（ドローイング作品）
名古屋芸大教員展	本学企画	2016. 6. 11～15	名古屋芸術大学 Art & Design Center内 ギャラリーBE	出品作品1点（パフォーマンス&写真作品）

<p>“場を作る”</p>		<p>2016. 4. 3～ 30</p>	<p>GALLERY MoMo Projects (roppongi)</p>	<p>“場を作る”をコンセプトに、積極的に活動の場を各地に拡げている。その一環として、ギャラリー（東京）オーナーを本学卒展に大崎が招いた折に企画展の相談があり、当時本学卒業予定の洋画2コース4年生6名のGALLERY MoMo Projects (roppongi)での発表展が実現した。GALLERY MoMo Projects (roppongi)は六本木ヒルズにある森美術情の傍にある商業ギャラリー。また、公験“場を作る”活動は外部のパートナー作りと関連している。</p> <p>選出作家：奥村岳史 近藤夕琴 杉浦光 濱口綾子 船戸彩子 山口諒</p>
---------------	--	---------------------------	---	---